

一般質問



大橋 議員

○通学支援事業の市民要望に対する市の対応について

質 「『住み続けたい!』を実感できるまち松浦」に向けた「ともだビジョン2022」、5款「安心・幸せのまち」4項「障がいのある人の社会参加と福祉の充実を進めます」の中にどのようなうたっているか、当該箇所のみ簡潔にお答えください。

市長 障がいのある人が住み慣れた地域で自立して暮らせるよう、訪問系サービスの充実、地域生活への移行の推進、相談支援体制の充実、就労支援、通学支援、成年後見人制度の利用支援など、各種福祉サービスのを通じて、障がいのある人の社会参加と福祉の充実を図ることとしています。

質 高等部へ上がると通学支援のバスの利用ができないと判断された理由を「ともだビジョン」に照らしてお答えください。

市長 市町村は小中学校の設置義務が課され、義務教育の直接の実施主体として責任を負っており、市で支援することが必要であるという考えから特別支援学校の小学部、中学部

への通学支援を行っています。

高等部については社会的自立を目指す中で自力での通学をしてほしいという県の考え方があり、自力で通学できない生徒については、県において宿舍つきの学校があることなどを総合的に判断し、高等部への通学支援は行っておりません。

質 市長のビジョンを達成するため逆算したバックキャストの思考で、この問題をどう考えられるか、お答えください。

市長 令和2年12月時点では、マンツーマンでのヘルパーの確保が難しかったためまずは小中学生への支援を優先し、高等部の支援については今後検討するとしていましたが、その後市内にもヘルパー事業所が開設され、当時と比べるとヘルパーも確保しやすくなっています。今回、改めて大橋議員から市民の方のご意見を踏まえた一般質問をいただき、議論を深めてきました。このような環境の変化やご指摘等を踏まえ、今回のケースに限らず、継続的な支援を行うための、ヘルパーの在り方や通学バスの運行経路の再検討など、現行制度を見直し、できることがないか、担当課に改めて検討を指示します。国、県への財政負担についても要望していきます。

この検討とは、中身を見直すことで実施をするということで、中身の見直しをしたいと考えています。

一般質問



神田 議員

○子牛価格下落に対する繁殖牛農家への支援策について

質 移植師の免許が取得できる機関を、田平町にある肉用牛改良センターに設置するよう、県に要望していただきたいが、この件について伺います。

農林課長 県北家畜保健衛生所に確認したところ、県北地域の関係者からも田平の肉用牛改良センターでも実施してほしいとの要望があつていますが、講習で使用する器具などの設備や先生の確保が困難などの理由によって、実施できていないとのことでした。

市長 まずは生産者のニーズや課題について管内市町と情報交換を行い、取り組んでいきたいと思えます。

質 松浦市内産の肥育牛を増産することにより、ふるさと納税などにつなげていきたい。若い方が意欲を持ってやろうとしている。行政としてやる気のある方をどのように捉えるのかお尋ねします。

農林課長 県が肉用牛経営緊急支援事業として、新たに肥育に取り組む繁殖農家に対し、1頭当たり10万円の支援を予定しています。詳細が示

されましたら農家の方に周知を図ります。また、加工施設等の施設整備が必要であれば、国や県の補助事業の活用等ご相談いただければと思います。

質 繁殖牛の経営で松浦を盛り上げたいという若者がたくさんいます。彼らの熱い思いを無駄にしないためにも、積極的な施策を講じていただきたいが見解をお伺いします。

市長 若い方々の意見を聞きながら、若い方が農業を続けたいと思えるように、どのような対策ができるか検討して実行してまいります。

○公共施設の洋式トイレの普及と今後の計画について

質 洋式トイレの普及が進んでいる状況の中、市長として公共施設の洋式トイレの設置について、どのように考えられているのかお伺いします。

市長 生活様式の変化により、洋式トイレは既に各家庭にも広く普及しており、市内公共施設を利用する高齢者を中心に、トイレの洋式化を望む声も多くあること、また、小中学生においては、学校での和式トイレの使い方が分からないといった話をよく耳にしております。そういった状況の中、学校や公民館、庁舎等の公共施設への洋式トイレの設置は、積極的に進めていかなければならないと思っております。